

# 人手不足 ケアに影響

介護保険 20年

第1部 「戸惑う」

介護保険制度の創設当初は想定されていなかった問題が、介護現場の深刻な人手不足だ。かつては志を抱いて集まってきた若者たちに現場は支えられていたが、今は希望者は減り、高齢化も進む。介護サービスの質や量にまで影響が出かねない事態に陥っている。

「今日みたいな時代が来るなんて、まさか思っていなかった」。首都圏20か所で介護付き有料老人ホームを運営する「アズパートナーズ」(東京)で、職員の採用に携わる管理職の浅見泰之さん(50)はため息をつく。浅見さんが介護業界に入ったのは1998年。大学を卒

## 「熱意ある人ほしいが……」

介護福祉士の国家資格がなければ、履歴書段階で落とされる。



職員に仕事や人間関係の悩み、目標などを聞く浅見さん(左)。離職防止のため、月に1回、面談を行っている

業して建設会社で経理の仕事をしてきたが、視覚障害のある母親の影響で、「介護の仕事をした」と思うようになった。ホームヘルパー2級(現・介護職員初任者研修)を取得し、就職活動を始めた。だが、当時は、学生時代から介護業界を目指して勉強してきた人たちばかり。数十の事業者に

応募しても、介護福祉士の国家資格がなければ、履歴書段階で落とされた。知人の紹介で、特別養護老人ホームを運営する社会福祉法人に「アルバイトからなら」という条件で、やっと採用された。翌年、正職員になり、その後、有料老人ホームの運営会社に職場を変え、2006年に今の会社に転職した。ホーム長として、新設する老人ホームの採用に携わった時はまだ、人材が豊富な時代。同僚と「応募者は3人とも良いのに、1人しか採用できないなあ」と、今ではぜいたくな悩みを口にしてきた。

無資格者でも様子が変わったのは、4年ほど前からだ。「ずいぶん職を転々としていた」「話す時に、目を合合わせる」

「せない」。気になる応募者が目立つようになっていった。元々は「スタッフ全員、有資格者」を売りにしていたが、無資格者でも採用せざるを得なくなった。この数年は、さらに状況が悪化。何か月も同じ求人広告を出し続け、介護への特段の熱意はなくても採用した。すると、「入居者への言葉遣いが荒い」「突然、職場に来なくなり、連絡も取れない」と

## 求人広告 応募ゼロ

常勤職員の採用が難しく、派遣スタッフに頼らざるを得ない施設も多い。東京都内のある特別養護老人ホームでは、介護職員の約2割が人材会社に紹介された派遣スタッフだ。求人広告は出しても応募がゼロ。広告費が無駄になるだけで、最近はそのをやめた。

男性施設長は「派遣の紹介も少なくなり、やる気も協調性もない人を紹介されることもある」と嘆く。人手不足が、介護職の質の低下を招き、ケアの質にも影響が出かねない事態も起きている。都内の介護老人保健施設では、認知症の利用者をどう取り扱う男性職員が問題になっ

いった職員が目立ち始め、社内で「課題職員」という言葉がささやかれるようになった。同業者からは「職員不足で、入居をストップした」という声も聞かされた。魅力を伝える

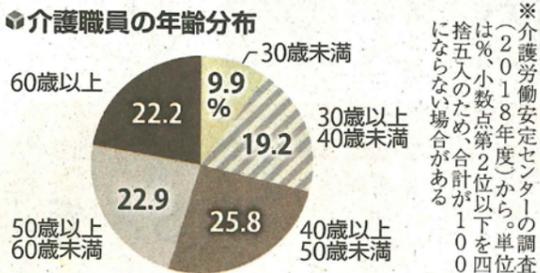
「このままではいけない」。どんなに人手がほしくても、気になるところがあれば採用しない。即戦力になる経験者採用にもこだわらず、新卒採用に力を入れた。この職員には3か月ほどで辞めてもらったという。事務長は「どんなに人手不足でも、こういう職員を許してしまったり、ニュースになるような虐待事件が起きてしまうと心配する。」

## 訪問介護 事務責任者 現場も兼任

東京都内の訪問介護事業所でサービス提供責任者(サ責)を務める女性(64)のスケッチ



業所の売り上げは落ちる。提供したサービスに対して受け取ることができない報酬は全国一律で決まっており、事業所などが独自に値上げすることはできない。この10年で売り上げは3分の1程度まで落ち



## 国推計

のに対し、60歳以上は2割を超え、現役世代の減少が加速し、人材に厳しくなる。国の推計では、25万34万人の介護職が不足するとされ、介護職の処遇改善を重ね、技能実習生や在留資格「特定技能」の創設、外国人材の活用を推進している。福祉大の白沢政和教授(社会福祉学)は「介護福祉士を目指す外国人材や、経験した人など、今後は多様な人を進めていくべきだ。介護職の給与は上がってきているものの、まだまだ上げない」と指摘している。

子、条文野が担当しました。